

# 三陸の海を放射能から守る

岩手の会 第48号

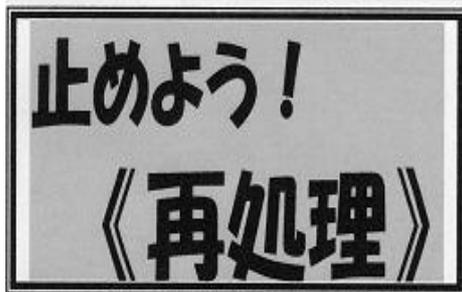
郵便振替 02240-5-102650

《岩手の環境/R I 廃棄物/再処理》

http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm

《まった再処理分庫》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k\_imag



# 天恵の海を守ろう!

2008 (平成20) 年  
1月 26日

編集事務局 S. Oshida  
TEL・FAX 019-623-1636

## 経産省安全・保安院担当官説明 岩手県議会環境福祉委員会

# 「原発では規制、再処理では放出」

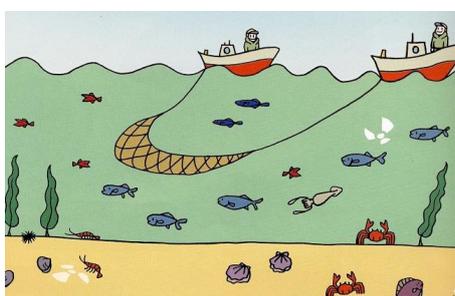
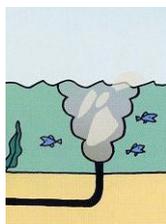
# 放射能除去装置の可能性を定せず

### 人工放射能は微量でも体内に入ると危険

放射能は

「海水で薄められるから」?

「安全」?



経口急性致死量  
4万7千人分

放射能の濃縮

「0.022ミリシーベルト以下」?

委員からは活発な質疑がなされ、心配する県民五十数名が九席の傍聴席に交代で座り傍聴しました。請問については今度も継続審議としました。

招致された参考人の経済産業省原子力安全・保安院核燃料サイクル規制課長石井康彦氏は、「再処理施設の安全規制」という冊子をもとに、六ヶ所工場から海に放出される放射性物質は、「法令で定める数値を充分下回っている」と説明しました。

岩手県議会環境福祉委員会は、一月十六日午前十時から、三陸の海を放射能から守る岩手の会が提出した「海に、空に、放射能を流さないことを求める請願」について国の説明を求めました。

### 「安全の結論」に至った資料の説明がない

石井課長は、経産省原子力安全・保安院や内閣府原子力安全委員会の組織の説明から始めて、国は再処理施設に対して安全評価や放射性物質の放出管理などを厳しくチェックしている」と説明しました。そして「大気や海洋、魚介類の摂取などを含め、人の健康に与える度合いを表す線量は、法令で定める年間1ミリシーベルト以下である」と強調しました。しかし、その結論を出すに至った、具体的な調査結果や計算経過を示すことはありませんでした。

(質問) 及川幸子議員(民主県民) 石井課長は青森県でどの程度説明を行ったのか。請問内容に年に四万七千人の急性致死量とあるがどうなのか、子孫への影響はどうなのか。(回答)

石井課長 青森県では各種の委員会や説明会に出席した。今まで岩手県で充分説明が出来ていなかったことは反省している。

### 放射能除去装置は経済的採算が問題

三浦陽子議員(民主県民) 放射線の感受性が高い胎児や子どもへの影響が心配される。放射能の除去装置はどうなっているのか。

委員会は昼休みをはさんで午後一時から再開され、請問はまたも継続審議となりました。

この日は、岩手県内のサーファー有志からも県議会議長宛て「海への放射能放出中止の要望書」が提出されました。

委員からの質疑と課長の回答の大部分は次の通り。(傍聴者のメモによる)

### 岩手への説明が不十分、反省している

石井課長 いろいろなケースを考えて計算しても、周辺住民の被曝は年間0.022ミリシーベルト以下で年間摂取限度以下である。除去装置は研究中である。クリプトンの回収技術はまだ実用化レベルには至っていない技術的に確立するだけでなく、費用の経済性の問題もある。

### 青森県議会提出 除去建屋配置図の経緯

及川あつし議員(無所属)

昨年の放出では原発規制値の約一四〇〇倍の濃度の日もあったと聞いたが、トリチウムの除去技術のその後の進歩はないのか。青森県議会提出資料図にあった除去建屋が抹消されたのはなぜか  
**石井課長** 原発は温排水であるが、再処理は海岸より三ヶ所の海底に各種の放射能の入った廃液を放出する。核種ごとに評価し、管理値を超えないようにし、モニタリングも義務化している。除去



傍聴に駆けつけた人々  
岩手県議会(二Fロビー)

## 傍聴者感想、あれこれ

- ◆冬休み最後の日、息子が「ボクも放射能はイヤだ」といつてついてきました。本当にこれは次世代の子ども達の問題です。
- ◆保安院課長は「クリプトンやトリチウムは回収はできるがその貯蔵は危険でできない」と語りました。そのような技術では数万年隔離が必要な高レベル最終処分貯蔵は絶対に出来っありません。トリチウム除去装置は「ふげん」にはついていました。トリチウムは、約120年間貯蔵すれば、放射能は減衰します。「除去装置設置の可能性は否定できない」との言を得たことは少し前進。
- ◆岩手県への説明が不十分だったことを認め「反省している」と述べたことは評価出来ます。ならば、原燃への言葉を伝え説明責任を果たすようにしてほしい。
- ◆課長は「除去装置の設置で、企業経営に経済的負担をかけるわけにはいかない」と語りました。これは40年前の公害全盛期にさかのぼったような時代錯誤の発言で企業利益優先という発想です。漁業者の不利益はどうなるのでしょうか？ 除去装置の開発について、国や原燃はどのくらい予算をかけて、いつからどのようにやっているのか、知りたいものです。
- ◆議員さんはそれぞれ、他の問題も抱えながら熱心に取り組む、頑張っていると思います。
- ◆海洋の環境影響調査もせずに「安全だ、安全だ」とお題目を唱えている国(経産省)でした。海洋生態系がどうなっていくか、全くふれられませんでした。
- ◆報道各社がかなり入っていました。夕方のテレビでは2局が放映していました。もっともっと取り上げてほしいです。

高橋元議員(民主県民)  
放射能は毎日放出されるのか。海洋へ蓄積されることはないのか。東海

トリチウムは身体に入ってもすぐ出て行く？

装置は、五年ごとに新しい技術導入を審査している。六三年に青森県議会へ提出されたといわれる「除去建屋配置図」は、原燃の内部資料が漏えいしたものが流れたものである。将来除去装置の見通しがついたとき設置スペースとして記されたもので、提出後に未梢したというものではない。

高橋博之議員(政和社民)  
除去装置は技術的には既に確立しているのでは

再処理は、除去技術が出来てからでも遅くはない

村再処理工場と六ヶ所再処理工場の違いは何か。  
**石井課長** クリプトンは、使用済み燃料がせん断される度に放出される。トリチウムは水素と同じで身体に入っても出て行く。ヨウ素129は議論があるところ、放射線研究所で海水実験が行われた。東海工場も六ヶ所工場もフランスの技術で設計思想は同じである。

ないか。プルトニウムは余っているのになぜそんなに急いで再処理を行うのか。除去装置ができてからでもいいのではないか。ラ・アーク再処理工場周辺の白血病の増加についてはフランス政府も認めている。水俣病、C型肝炎についても政府が安全と言っても疑わしい。予防原則が大事である。法令の数値は本当に安全か、京大山名先生も「放射線はリスクがないとは言えない」と答えておられる。また米科学アカデミーでは放射線は微量でも危険と報告しているがどうか。

十二月二十七日、花とハーブの里(六ヶ所村)、P E A C E L A N D (八戸市)、岩手の会(盛岡市)など青森、岩手、宮城の二一市民団体は連名で、三村申吾青森県知事に「六ヶ所村再処理工場に関する質問状」を提出しました。内容は、アクティブ試験により濃度規制もなされないまま大量の放射能廃液が海に流され

### 青森県知事へ質問状 青森岩手宮城の二一団体

石井課長 今後は、出来れば、除去装置をつけ可能な限り放出を少なくすることを事業者へ求めていく方向である。しかし、民間の事業場であり、除去装置をつけるために、大きな資金がかかるのは指導できない。クリプトンの除去技術は検討されているが、除去したものを安全に貯蔵する保証がない。  
放射能の安全規制については、国際的なICRPやIAEAなどの規制値に従う。放射能の影響には「確定的影響」と「確率的影響」がある。経済活動をストップさせるにはその根拠が必要である。

### ガラス固化体について 経産省へ要請行動

昨年十一月に開始された六ヶ所工場のガラス固化体の製造工程には、「ガラス熔融炉内の温度が安定せず高レベル放射性廃液を均質にガラス固化体に閉じこめられない」という重大な技術上の問題があるとして、美浜の会や原子力資料情報室、「岩手の会」など十四団体が一月十五日、経産省へ要請行動を行いました。要請事項は、1、ガラス固化工程のトラブルの実情についてあるがまみに公開すること。2、トラブルが解決するまで、再処理作業を止めること、と申し入れました。

ていることをどう思うのか、安全協定にある放射能低減の努力はなされているのか、放射能除去装置設置を原燃に指導すること、廃液で三陸海岸まで放射能汚染が広がった場合の責任はどうなるのか、風評被害補償を岩手、宮城まで拡大することなど二五項目に亘ります。  
青森県庁を訪れた代表は、一月十五日までに回答を受け取りたいと伝え、青森県当局に手渡しました。